

「ナクテ」と「ナイデ」の差異について

加藤 陽子
国際大学
日本語プログラム

Abstract

This study examines differences between two negative forms of predicates: NAKUTE and NAIDE in relation to the degree of subordination between the main and the subordinate clauses. NAKUTE and NAIDE, both of which are negative counterparts of inflected part of predicates "TE," function to connect two predicates or clauses.

NAKUTE and NAIDE are divided into four groups respectively, and the degree of subordination of each group is examined. This study argues that the degree determines the selection of NAIDE and NAKUTE, i.e., the lower the degree is the more frequently NAKUTE appears instead of the other negative form NAIDE.

Moreover, the grammatical features of predicates which precede both NAIDE and NAKUTE are also examined. This study argues that the degree, the grammatical feature of the preceding predicate and the difference between NAKUTE and NAIDE are deeply inter-related.

1. 本研究の目的と方法

否定辞「ナイ」を含んだ述語のテ形には、「～ナクテ」と「～ナイデ」がある。これらは、「～ナイデクダサイ」や、「～ナクテハナラナイ」のように、一義的に形式が決まっている慣用的なものもあるが、節同士を接続するものとしてこれらが使われた場合、その使い分けの原理は必ずしも明確ではない。本稿は、「ナクテ／ナイデ」で節を結んだ複文（以下、ナクテ文／ナイデ文）の差異を、「従属節の主節に対する従属度」（以下「従属度」）という観点から明らかにすることを目的とする。具体的には、述語のテ形で節同士が結ばれた複文（以下「テ形文」）の従属度のスケール上のどこに「ナクテ文」「ナイデ文」が位置するかを考察し、両者の差異を探る。

2. 先行研究

「ナクテ」と「ナイデ」の差異については、様々な観点から説明が試みられてきた。鈴木(1976)は、「切れ方の差」と「動詞の動作性・状態性」をキーとして両者の差異を説明している。北川(1979)は、「主語の異同」と「動詞の種類」を問題にして両者の違いが述べられている。戸村(1986)では、両者の選択に、従属節・主節の述語の[controllable]の素性が関与していることが指摘されている。また、本稿と近い立場で両者の差異を説明したものには

小金丸(1991)があり、ここでは、南(1974)のテ形の分類に「ナクテ」「ナイデ」を対応させて差異が説明されている。

本稿では、先行研究でこれらの差異を説明する際に使われた「切れ方の差」「動詞の性質」「コントロール可／不可」等を従属度という観点を使って整理し、両者の差異を探って行きたいと考える。

3. テ形の従属度

3・1 従属度によるテ形の分類

「ナクテ」と「ナイデ」の差異を考える前に、両者の否定辞を取り去った、テ形自体の従属度を考えてみたい。加藤(1995)では、複文の主節末のモダリティが作用するスコープという構造的観点と、節の命題同士の時間関係や論理関係等の意味的観点を基に、テ形文の従属節の従属度を測定した。従属度によりテ形節はテ1からテ4までに分け、この順番で従属度が低くなっていくと考えた。以下にそれぞれの意味ラベルと例文を示す。

従属度	テ形の意味ラベル	例文
高い↑	【テ1 付帯状況】	(1) ああ、オレは定期券持 <u>つて</u> 通学したいよう。(太郎9)
	【テ2 継起的動作】	(2) ねえ、ここ売 <u>つて</u> 、マンション買 <u>うて</u> 、明るくて新しいところへ移りましょうよ。(ココア245)
	【テ3 原因・理由】	(3) でも、わたくしさびしくて <u>て</u> 気がへんになりそうですの。(※98)
低い↓	【テ4 並列】	(4) 買い物先でメモを忘れたことに <u>気づいて</u> 、朝、電気がまのふたを開ければまだ米のまま。ふろに入ろうとすれば、浴槽の栓を忘れて湯気だらけ、などなど。わが家の日常のほんの一例。(1992年7月29日朝日新聞朝刊一部改；原文は「気づき」)

「付帯状況」という意味ラベルを持つテ1とは、例文(1)の様に、従属節命題が、主節命題の事態進行の付帯的状況になっているものである。テ2(継起的動作)は、(2)の様に「従属節命題の事態が生起し、完全に完了した後に従属節命題とは別の事態が生起し完了する」という、複数の事態の時間軸に沿った継起的な生起と完了を指すものである。テ3(原因・理由)とは、(3)の様に、従属節命題が主節命題の原因や理由になるものである。いちばん従属度が低いテ4(並列)とは、寺村(1992)で「統括命題」と呼ばれている、ある意味的範疇に属する要素を、それらの生起した時間の順番に関係なく、並列的に並べたものである。

この従属度は、主節末に付く様々なモダリティのスコープの広狭が反映する複文の構造によって判定された。この二つの構造とは、(5)の、主節命題のみならず従属節命題も一まとまりになって主節末のモダリティの作用域に入るもの(α構造)及び、(6)の、従属節命題が主節末のモダリティの作用を受けず、主節からは比較的独立しているもの(β構造)である。

([] は主節末モダリティのスコープ)

そして、従属度の高い複文は α 構造を持ち、従属度の低い複文は β 構造をもつと考えた。

α 構造 [従属節の命題+テ形+主節の命題] 主節末モダリティ

(5) [ヌード写真は一応親にかくし~~て~~買わ] ねばいけない。(太郎213)

β 構造 従属節の命題+テ形+ [主節の命題] 主節末モダリティ

(6) 新年会などの催しは簡素にし~~て~~、 [飲み食いし] てはならない

(1991年12月18日朝日新聞朝刊一部改：原文は「簡素にし」)

加藤(1995)では、主節末のモダリティを、発話者の知覚的判断を表す「判断のモダリティ」と、命題の実現に対する期待を表す「実現期待のモダリティ」に分け、述語の主体の異同も分けて、 α 構造と β 構造の分布を次のように判定した。

主節末モダリティの種類	テ形		テ1		テ2		テ3		テ4	
	主体の異同		同	異	同	異	同	異	同	異
判断 (タ ¹ ロ ¹ 、マイ(否定推量)ニカ ¹ イ ¹ 、カ ¹ シ ¹ ナイ、ラ ¹ シ、ヨ ¹ ダ ¹ 、 リ ¹ ク ¹ (様態用法のみ)ミ ¹ タイ ¹ 、モノ ¹ ダ、ナ ¹ ケ ¹ バ ¹ ナ ¹ ラ ¹ ナイ、 ϕ (確言)			α		α	α	β	β	β	β
実現期待 (～サ ¹ イ、シ ¹ ロ、テ ¹ ク ¹ ダ ¹ サ ¹ イ、～ナ、～ヨ ¹ リ、～マイ(否定意志)、 ϕ (意志))			α		α	α			β	β

(表注) テ1においては従属節と主節の主語はいつも同一。またテ3では、「従属節の事態を原因・理由として起こる主節の事態」という関係の意味が、実現期待のモダリティと意味的に整合しないことから、当該の箇所に構造の判定結果が書かれていない。

ここから、テ1からテ4になるに連れて β 構造が多くなる、つまり従属度が低くなっていくことがわかる。以上のように構造の違いという点に着目して、テ形文を従属度の観点から4つに分類した。それでは、このテ形の分類、及び分類の基準となった構造の違いが「ナクテ」と「ナイデ」とどのように関わっていくのか、見ていきたい。

3・2 否定辞による構造の違い

【テ1】 (7) 自転車に乗って歩道をいく~~な~~。

まず、 α 構造を持つ例文を取りあげる。(7)は α 構造を持つので、(7a)(7b)のように、否定の焦点位置は従属節命題と主節命題の二カ所に確認される。(線部は焦点位置) 同様に(8)も従属節までスコープが及ぶ α 構造であるため、否定辞「ナイ」を主節末に付けた場合、どこが否定されているのか曖昧になる。否定の焦点が従属節だということを明示するためには、「ナイデ」を使わなければならない。

(7a) [自転車に乗って歩道をいく] 型。

歩道を歩く歩行者に迷惑だから、歩道では自転車を押して歩け。

(7b) [自転車に乗って歩道をいく] 型。

この歩道は幅も狭く、放置自転車があちこちにあつたりして危険だ。自転車で行くならかえって車道の路側帯を使え。

(8) ラジオを聞いて勉強しない。→ラジオを聞かないで勉強する。

【テ4】(9) 注射後一時間は安静にして激しい運動をする型。

(9)' 注射後一時間は安静にして「激しい運動をする」型。

(10) この部屋は南を向いていて2×4で建てられていて樹で外から見えぬ。

→この部屋は南を向いていなくて2×4で建てられていなくて樹で外から見える。

一方、β構造を持つ例文を観察すると、(9)は、(7)(8)とは異なり、(9)'のように、否定の焦点は主節の命題だけにしか位置しない。また、(10)も、主節末の否定辞「ナイ」は主節の命題を否定するだけで従属節の命題に焦点が及ばない。テ1の否定辞としてナイドが使われたのに対し、テ4の場合の従属節の否定は「ナクテ」が使われていることがわかる。

以上の観察から、従属度の違いによる「ナクテ」「ナイド」の対応が予想される。以下、テ1～テ4に対応するナイド文を、「ナイド1～4」、ナクテ文を「ナクテ1～4」とし、従属節・主節の主体（ここでは、述語の出来事を引き起こすもの・述語の心理状態等を経験するものを指す）の異同も考え合わせ、各用法ごとの実例の分布を観察したい。ではまず、ナイド／ナクテ1～4の定義を例文と共に見ていきたい。（例文番号は後掲の表3～表5と対応しているため、順不同）

ナイド／ナクテ1：(11)「彼女はニコリともしないで言った。」

ナイド／ナクテ2：(13)「いつだってひとの話ちゃんと聞かないであとからイチャモンつけるんだもの。」

ナイド／ナクテ3：(16)「太郎は書き取りができないで困っている。」

(20)「時間の見当がつかなくて、こんなに早く着いちゃったんです。」

ナイド／ナクテ4：(18)「真一、いつまでも本なんか読んでないでこっち来て飯を食え」

(22)「夜もうまく眠れなくて、食欲もほとんどなくて。」

テ1に対応するナイド1／ナクテ1とは、例文(11)の様に、従属節事態が欠如した状態が主節の事態進行の付随的な状況になっているものである。

テ2に対応するナイド2／ナクテ2とは、例文(13)のような、主節の動作や事象が生起する前に起こるべき従属節の動作や事象が生起していないことを表す文である。これがナイド1・ナクテ1と異なる点は、従属節命題と主節命題の間に、事態生起の時間差があることを示す「それから」や「そのあと」などの接続詞が挿入できる点である。

次に、テ3に対応するナイド3／ナクテ3は、例文(16)や、例文(20)等の、従属節の事態が欠如していることが、主節の事態を引き起こす原因・理由になっているものである。

最後の、テ4に対応するナイド4／ナクテ4は、例文(18)や、例文(22)のような、従属節の事態

が欠如していることが、ある意味的範疇（統括命題）に属する要素の一つとして並べられているものである。

次節からは、以上の様にテ形文に対応させて分類したナクテ／ナイデ文の分布を観察する。

4. ナイデ文

本節では、テ形文1～4に対応するナイデ文の分布を観察し、それぞれの節の主体が同じもの、違うものに分け、表3・4のような結果を得た。

同主体	1	2	3	4
ナイデ	◎(11) (12)	○(13) (14)	○(15) (16)	◎(17) (18)

表3

異主体	1	2	3	4
ナイデ	/	×	×	○(19)

表4

（表注）表中の番号は、対応する例文の番号。◎は、用例が多いもの。○は比較的少ないもの。

- (11) 彼女はニコリともしないで言った。（良女162）
 (12) 「もう行っていい。今度は、妙な所をうろつかないで帰るんだぞ。」（卒業31）
 (13) いつだってひとの話ちゃんと聞かないであとからイチャモンつけるんだもの。（ファミリ-36）
 (14) だが、車はヤスさんのところまでは来ないで、右へ曲がった。（他人57）
 (15) まるで就職の面接に行って、雇用主と条件で折り合いがつかないで物別れに終わった、応募者みたいなのだ。（失恋119）
 (16) 太郎は書き取りができないで困っている。（戸村(1986)）
 (17) 刑務所から泳ぎに来ているみたいね、お互いに話をするのもしなくてなんとも陰気な顔つきをして、というのを聞いたこともあった。（新しい人88）
 (18) 真一、いつまでも本なんか読んでないでこっち来て飯を食え。（少年58）
 (19) 夏子が来ないで冬子が来た。（小金丸(1991)）

この表から、わかることをまとめると、次のようになる。

- ① 同主体の場合、ナイデ文は1から4に広く分布しているが、ナイデ2・3は比較的用例が少ない。（ナイデ2は132例中9例、ナイデ3は同5例）主節末につくモダリティは、ナイデ3以外、判断のみならず実現期待のモダリティもとれる。（注1）
- ② 異主体の場合ナイデ文は、ナイデ4（並列用法）のみ成立する。その際、(19)のように従属節・主節の述語動詞が同じになることが多い。

それでは、ナクテ文の場合の結果はどうであろうか。

5. ナクテ文

同／異主体	1	2	3	4
ナクテ	×	×	◎(20/21)	◎(22/23)

表5

- (20) 時間の見当がつかなくて、こんなに早く着いちゃったんです。(卒業85)
 (21) 心理のほうはクーラーきく？こっちはきかなくって、夏は地獄よ。(N.P.41)
 (22) 夜もうまく眠れなくて、食欲もほとんどなくて。(森下17)
 (23) 「ウルグアイってそんなに不潔なの？」

「知らないわよ。でも彼女はそう信じているの。道はロバのウンコでいっぱい、そこに
 蠅がいっぱいたかって水洗便所の水はろくに流れなくてトカゲやらサソリやらがうよ
 うよいるって。」(森上135)

表5から、ナクテ文は、ナクテ3（原因・理由）及びナクテ4（並列）の用法に限られる
 ことがわかる。主節末のモダリティとの共起に関しては次節で後述するが、「ナクテ4」の
 主節末に実現期待のモダリティが見られないのが特徴的である。

それでは次節で、ナクテ文とナイデ文の用法を比較し、観察の結果をまとめる。

6. ナクテ・ナイデと従属度

	高い ← 従属度 → 低い			
	1	2	3	4
ナイデ	◎	○	○	◎
ナクテ	×	×	◎	◎

表6

表6から、全体的な傾向として、ナイデはテ1～4にわたって様々な関係的意味を表すが、
 ナクテは、テ3・4の比較的従属度の低いテ形節に対応する従属節否定の形式であることが
 わかる。言い換えれば、テ1・2に対応する否定形式は、ナイデに特有の用法なのである。
 従って以下では、ナクテとナイデの差異を、テ3・4に対応する用法に限って観察すること
 になる。

まず、ナイデ3／ナクテ3を観察する。「ナイデ3」は、筆者の調べた限りでは、他のナ
 イデ文の例と比べると少数で、例(24)～(26)の様に「ナクテ3」を使っても文意の実質的な
 変化をもたらさない。従って、「ナイデ3」は「ナクテ3」と交換可能であることがわかる。
 しかし、反対に「ナクテ3」を「ナイデ3」にすると、以下の例(20)(21)の様にすわりの悪
 い文になることが多い。このことから、テ3に対応するのは、ナクテ3の方が一般的である
 と言える。(注2)

- (24) 本堂には入りきれないで (○入りきれなくて) 廊下にこぼれている者も沢山御座います。

(出家56)

- (25) 会社の使命に気づかないで (○気づかなくて) 三番目の誕生日が来なかった会社にとっては、
 四番目の日は突然の経営の破綻という形でやってくるが、(中略) (1995年1月1日朝日新聞)
 (26) 私たちだって、結婚した当初はいろいろうまくいかないで (○うまくいなくて) 大変だった
 のよって。(森下244)

- (20) 時間の見当がつかなくて、(*つかないで)こんなに早く着いちやっただです。(卒業85)
 (21) 心理のほうはクーラーきく? こっとはきかなくって、(*きかないで)夏は地獄よ。(N.P.41)

それでは次に、テ4に対応するナクテ4/ナイデ4の差異を考察する。この用法に於いて両者が完全に異なっている点は、「ナクテ」文の文末に依頼や命令などの実現期待のモダリティが位置できない、という制限がある点である。「言つてよ」という依頼のモダリティを主節末に持つ例文(27)に於いて、ナイデをナクテにすると、許容度が落ちる。この点に於いて、「ナクテ4」を「ナイデ4」が補う形になっており、聞き手に働きかける意味の強いモダリティが文末に来た場合には、一義的にナイデが選択されることになる。

- (27) ジュン、黙つてないで (*黙ってなくて)何か言つてよ。(少年134)
 (28) 透サンも無精しないで (*無精しなくて)これからはコマゴマと自分でやるクセをつけて下さい。(JJF118)

以上から、ナクテとナイデが交換可能な場合は、主節末が判断のモダリティの場合の、テ4に対応するナクテ4とナイデ4に限られる。しかし、例を見ると、無条件にいつも交換可能というわけではない。(29)(30)のように交換可能な場合もあるが、(31)~(35)のように、交換すると不自然さが残る場合もあるのである。

- (29) あたしが顧問みたいになってるお店で、モダンジャスでもブルーベックなんかのスクエアなやつは一枚もおいてなくて (○おいてないで)、とびきりヒップなのといわゆる new thing、それに現代音楽を聞かせるの。(聖)
 (30) 人間とは不思議なものだ。心を許せる人の前では強がりを言わなくて (○言わないで)、知り合い程度の人の前では自分の弱さを見せまいとする。
 (31) まだ結婚していなくて (? 結婚していないで)ますます綺麗になるみたいだった。(JJF234)
 (32) 道はロバのウンコでいっぱいそこに蠅がいっぱいたかつて水洗便所の水はろくに流れなくて (? 流れないで)トカゲやらサソリやらがうようよいるって。(森上135)
 (33) おばなんてもともといなくて、(? いらないで)事故の時みんな死んでいて、私だけがここをたずね、残りの3人がそういう私をどこかから見つめていたのかもしれない。(哀81)
 (34) 夜もうまく眠れなくて、(? 眠れないで)食欲もほとんどなくて。(森下17)
 (35) ええと、元宮殿で、街にあんまり遠くなくて、(*遠くないで)静かで、オールファニチュアで庭があつて、クリーンなとこね。(桂59)

それでは、どのような理由で、主節末に判断のモダリティをとるナクテ4とナイデ4が交換不可能になるのだろうか。

7. 述語の種類と従属度

本稿では、従属節の述語の種類がナクテ4とナイデ4の交換の可能性を決める要因になると考えた。

下表は、ナクテ文・ナイデ文の従属節の述語の種類を動作性／状態性及び意志性／無意志性の観点から五つに分けて示したものである。ここでは便宜的に、「テイル」をつけて事態の進行の意味になるものを動作性、ならないもの・またはテイルがつかないものを状態性とし、命令や禁止の形が作れるものを意志動詞、作れないものを無意志動詞とした。(注3) これらの4つの要素の組み合わせによる動詞のグルーピング(A～E)は各々以下の通りである。

動作性	A	動作性の意志動詞	騒ぐ・行く・読む・飲む・言う・見る……
	B	動作性の無意志動詞	流れる・光る・荒れる・むせる……
状態性	C	状態性の意志動詞	いる(存在スルの意味)
	D	状態性の無意志動詞	ある・できる・可能動詞・優れる……
	E	形容詞・名詞+だ	大きい・元気だ・大人だ……

表7 動作性 状態性

	A	B	C	D	E
ナイデ ¹	○	○	○	○	×
ナイデ ²	○	○	?	?	×
ナイデ ³	?	?	?	○	×
ナイデ ⁴	○	○	?	○	×

表8 動作性 状態性

	A	B	C	D	E
ナクテ ¹					
ナクテ ²					
ナクテ ³	○	○	○	○	○
ナクテ ⁴	○	○	○	○	○

(表注) ○/×=当該の述語を使って文が成立/不成立 ?=用例が採集できなかったため不明

表7・8から、従属節の述語が主体の意志でコントロール可能か不可能か、また、動作性か状態性か、ということが、「ナイデ」「ナクテ」の根本的な使い分けに反映されていると推測できる。表から、ナクテ文には、従属節にとれる述語の種類にあまり制限がないが、ナイデ文には「状態性の述語は取りにくい」という全体的な傾向があることがわかる。本稿ではこの、動作性の述語は取りやすいが状態性の述語は取りにくいというナイデ文の性質が、ナイデ4/ナクテ4の使い分けにも反映されていると考える。

つまり、(29)(30)のナクテがナイデと交換可能なのは、従属節の述語「おく」「言う」がグループAに属するものであるからだと考えられる。また、(31)～(35)でナイデ文が不自然になるのは、従属節の述語が無意志的、或いは状態性の述語だからであると考えられる。それぞれの従属節の述語の種類を観察すると、例文(31)と(34)がD、(32)がB、(33)がC、(35)がEとなっている。ここから、ナイデ4には、「動作性の述語と共起しやすいが、状態性の述語とは共起しにくい」というナイデ文の傾向が反映されていることがわかる。この傾向は例文(34)(35)の差異からも読み取れる。

昨日は論文の締切日で大変な日だった。できる限りの時間を論文にあてた。

(34)夜も眠らないで(?眠らなくて)、食べ物もろくに食べないで(?食べなくて)、お風呂にも入らなかった。

昨日は39度も熱が出て大変な日だった。

- (35) 夜も眠れなくて(？眠れないで)、食べ物も少ししか喉を通らなくて(？通らないで)、お風呂にも入れなかった。

この、従属節に取り得る述語の種類ということに関しては、先行研究である北川(1979)に示唆的な記述がある。これによれば、「ナイデ」という形式は、否定辞「ナイ」が動詞型に活用したものであるという。述語の中でも動詞のみに接続し、形容詞・形容動詞・名詞＋ダなどの述語には接続しないという形態的特徴がこれを裏づけている。一方、「ナクテ」は、否定辞「ナイ」が状態性述語(形容詞・形容動詞)型に活用したものであるという。述語一般に接続するという特徴を備えている。従属度の高いテ形節の否定形式である「ナイデ」が、動作性の述語につく一方で、状態性が強い述語につきにくいのは、この活用の形態的制約にも関係がある、と推測できる。以上のことも考えれば、述語の性質と従属度、そしてナイデ・ナクテには相互の関連性が認められることがわかる。

本稿では、このような、テ4に見られる述語の種類の違いによるナイデ／ナクテの選択は、ナイデ／ナクテの従属度の違い、各用法が表す「付帯状況」「並列」などの関係の意味に相互に関わる問題であると考えられる。

述語の性質と関係の意味の関連については、従属節の述語の表す事態を完結性のあるものとして捉えているか、という点が関係の意味の実現に深く関わっていると考えられる。動作性述語は、時間に沿って(線条的に)動作が発生し完結するという性質を持つ。一方、状態性述語は時間の流れ(線条性)に関係なくある状態が存在することを表すもので、動作の完結は表せない。また、意志動詞は、意志的にコントロールできるという点から動作が完結性をもちやすい。また、無意志動詞は、意志的にコントロールできないので動作が状態性を帯びるものが多い。このような動詞の性質が、従属節で表された事態が動的な進行中の動作として主節の付随的な状況となる「付帯状況」、従属節で表された事態を完結したものとして捉える「継起」・「原因／理由」、節の事態が状態的であるため、節どうしの時間的前後関係を問う必要がない「並列」の関係の意味の形成に関与し、テ形文の従属度のみならず、ナクテ／ナイデ文の従属度にも反映しているのだと思われる。この述語の種類と事態の完結性という点は戸村(1986)のcontrollableの観点や、鈴木(1976)の「切れ方の差」といった観点に関連しているのである。

以上、「ナクテ／ナイデ」の違いを、従属度の観点から考察してきた。最後に次節で、「ナイデ」の従属度の高さを表す補助動詞の後接という現象を少し取りあげてみたい。

8. 補助動詞の後接

- (36) 習慣をかえさせないでもらいたい。(7729-127)

- (37) 母の滋乃に経済の実権をもたせないでおくところなどは、…(中略)(あした31)

- (38) 見習わなくてははいけないと思いながら、わたしはなかなかできないでいる。(男とき158)

- (39) いやあ、驚いた。よくまあ、今まで売りとばさないできたもんですよ。(桂121)

以上の例からわかるように、述語に「～モラウ・オク・イル・クル」といったヴォイスやアスペクト等を表す補助動詞が後接したものの中に入る否定の形は「ナイデ」であり、「ナクテ」にはならない。「述語＋補助動詞」の様に、相互の結びつきが密接なものの中に「ナイデ」が入るということは、従属度の高いテ1の否定形として働くナイデの延長線上にあるものとして捉えられる。つまりこのことは、ナイデ自身が述語と密接に結びついた従属度の高い形式であることを示している。

9. まとめ

本稿で述べてきたことをまとめると、次のようになる。

ナイデは、用例の分布がナイデ1～4と広範囲に認められるものの、基本的に従属度の高いテ形の否定辞として機能することが多く、ナクテは比較的従属度の低いテ形の否定辞として機能する。両者が表す従属節・主節の関係的意味を挙げれば、ナイデに特有の用法が「付帯状況」「継起」、ナクテに特有の用法が「原因・理由」である。両者が共有する「並列」の用法に関しては、主節末につくモダリティによる制限が見られる。主節末のモダリティが命令・依頼などの実現期待のモダリティの場合は、一義的にナイデ文が選択される。主節のモダリティが判断のモダリティの場合には、互換が可能な場合とそうでない場合があるが、従属節の述語の動作性／状態性・意志性といった性質が両者の選択の要因となっていることが考えられる。動作性の述語の場合は、互換性が高いが、状態性の述語になると、ナクテ文からナイデ文への交換がしにくくなるのである。

以上の様に本稿では、両者の違いを、述語の性質・主節と従属節が表す関係的意味等に関連させ、従属度をキーとして考察を進めてきた。本稿では全体的な傾向を指摘するにとどまったが、これからは、述語の性質をもっとよく吟味し、主節の述語の種類も考察の対象に入れ、主節述語と従属節述語との組み合わせを中心に更に詳しく考察していきたいと考える。

注

- 1 ナイデ3の主節末に実現期待のモダリティが来ないのは、テ3の主節末に実現期待のモダリティが共起できない理由と同じである。
- 2 後述する「従属節の動詞の性質」という観点からナクテ3／ナイデ3の互換性を検討すると、ナイデ3の従属節の述語は皆、状態性の無意志動詞であることがわかる。本稿では、このナイデ3との従属節の述語の種類の一致が、互換を可能にしている大きい要因ではないかと考える。
- 3 基本的には無意志動詞であると考えられる動詞でも、副詞との共起などによって意志動詞的に使われる場合もあり、その逆の場合もある。従って動詞の意志性の判断には、動詞の性質もさることながら、最終的には文脈の中での使われ方を参照して判断した。

付記

本稿は、平成7年度日本語教育大会春季大会(1995.5.28)での発表「「ナクテ」と「ナイデ」の差異について」を基にしたものである。発表の場で有益なコメントをくださった方々に感謝申し上げます。

主要参考文献

- 北川 千里(1979)「「なくて」と「ないで」」『日本語教育』29号 日本語教育学会
 小金丸春美(1991)「「のではなく」の機能」『阪大日本語研究』3
 鈴木 英夫(1976)「「なく(て)」と「ないで」と「ず(に)」の用法の異同について」
 名大教養部紀要
 寺村 秀夫(1992)「並列的接続とその影の統括命題」『寺村秀夫論文集Ⅰ』くろしお出版
 戸村 佳代(1986)「「なくて」、「ないで」再考」『筑波大学留学生教育センター
 日本語教育論集』1 筑波大学留学生教育センター
 南 不二男(1974)『現代日本語の構造』大修館書店
 加藤 陽子(1995)「テ形分類の一試案 従属度を基準にして」『世界の日本語教育第5号』
 国際交流基金 日本語国際センター

用例出典

- ・「あした」：「あした来る人」 井上靖 新潮文庫
- ・「男どき」：「男どき女どき」 向田邦子 新潮文庫
- ・「ココア」：「孤独な夜のココア」 田辺聖子 新潮文庫
- ・「失恋」：「無印失恋物語」 群ようこ 角川文庫
- ・「N・P」：「N・P」 吉本ばなな 角川文庫
- ・「良女」：「無印良女」 群ようこ 角川文庫
- ・「太郎」：「太郎物語—高校編—」 曾野綾子 新潮文庫
- ・「哀」：「哀しい予感」 吉本ばなな 角川文庫
- ・「卒業」：「卒業 セーラー服と機関銃・その後」 赤川次郎 角川文庫
- ・「森上／森下」：「ノルウェイの森(上)／(下)」 村上春樹 講談社文庫
- ・「新しい人」：「新しい人よ眠ざめよ」 大江健三郎 講談社文庫
- ・「桂」：「森村桂宮殿に住む」 講談社文庫
- ・「少年」：「ビートたけし」 新潮文庫
- ・「出家」：「出家とその弟子」 倉田百三 新潮文庫
- ・「ファミリー」：「ファミリー・レポート」 森瑤子 新潮文庫
- ・朝日新聞朝刊1991年12月18日、1992年7月29日、1995年1月1日
- ・「氷」：「氷点」 三浦綾子 角川文庫
- ・「他人」：「他人同士」 阿刀田高 新潮文庫
- ・「聖」：「聖少女」 倉橋由美子 新潮文庫